

令和4年度第1回学術講演会報告

令和4年10月1日学術講演会を開催
させていただき、歯科感染制御研究会の
河野雅臣先生にご講演いただきました。
社会を混乱の渦中に引きずり込んだ
コロナへの対策を中心にお話いただきました。



この感染症の発生当初、正確な情報がなく、とにかく感染を恐れたことは記憶に新しいと思います。このような感染症が発生した際、予防策のヒエラルキーとして

1. 管理統制
2. 環境制御
3. 個人用防護具 + α PPE

をあげて頂きました。重要度は同順となります。管理統制を行えばリスクとの接触機会を減らし、環境制御として職場の換気やエアロゾルの発生軽減策をとります。我々はこのパンデミック以前よりスタンダード・プリコーションを徹底して仕事にあたっておりますので、3に関してはあまり変化がないかもしれません。ウィルスも変異株の発生で症状に変化が出てきております。当初話題になりました味覚異常や嗅覚異常といった症状は、現在では発生率約10%と減少しております。発熱する患者様も約50%程度となっておりますので、発熱がないから大丈夫ということは無いです。問診表の見直しも必要となってくるかもしれません。

歯科ではエアロゾルの発生が問題とされておりましたが、最新の研究で通常のバキュームに加え、口腔外バキュームとラバーダムを併用することでかなりの発生を抑えられるとのことでした。

また診療室の換気も重要となります。1時間あたり部屋と同体積の空気量が入り替わる回数ACH12以上が求められますが、自然換気のみでは難しいと考えられます。そこで窓、入り口を開いたうえでサーキュレーターを用い、空気の流れを作り出すことで換気を促します。

これらの対策を講じたうえで適切な個人防護を行い感染症から身を守り、またそれが患者様の安全にもつながると考えられます。

日頃より感染症と向き合う我々にとってスタンダード・プリコーションは基本であり究極であると改めて感じました。今回の学術講演会は「歯初診の算定基準」に対応した内容となっております。来年の報告時に今回の内容を記載いたしますので、終了証の保

管をお願いいたします。

最後になりますが、ご講演いただいた河野先生、資料を準備頂いた事務局さん、委員の先生方ありがとうございました。

島津大輔

府中市歯科医師会 学術講演会

「一般歯科診療における
リスクマネジメントとしての感染対策」

河野 雅臣
歯科医師・博士(感染制御学)
歯科感染制御研究会 代表